

「高校生のための学びの基礎診断」の認定に関する審査委員会
審査準備会議

日時：平成30年6月19日（火）9：45～12：15

場所：文部科学省5F1会議室

議 事

(1) 「高校生のための学びの基礎診断」制度について

資料1 「高校生のための学びの基礎診断」の認定に関する審査委員会について

資料2 「高校生のための学びの基礎診断」の認定に関する審査委員会の運営について

資料3 「高校生のための学びの基礎診断」の認定に関する審査委員会 名簿

机上配布資料

① 「高校生のための学びの基礎診断」（平成30年3月6日文部科学省初等中等教育局）

② 「高校生のための学びの基礎診断」Q&A

③ 申請様式記載例（「高校生のための学びの基礎診断」検討ワーキング・グループ（第3回、H29.9.15開催）資料）

(2) 「高校生のための学びの基礎診断」の認定に関する審査について

資料4 申請が見込まれる測定ツール一覧

資料5 分担審査の担当案（暫定版）

資料6 認定に係る審査プロセス（案）

資料7 認定のための審査の観点（案）

資料8 専門分野毎に見るべき主な観点（案）

資料9 認定にあたっての指摘事項（イメージ素案）

資料10 認定に係る審査結果記入様式（案）

資料11 民間事業者が記入した申請様式案（事前相談時点）

※「スタディサポート（αタイプ）」

「スタディサプリ 活用力診断～スタンダード～」

「学習到達度診断 基礎力コース」

「Aptis for Teens」

(3) その他

「高校生のための学びの基礎診断」の認定に関する審査委員会について

平成30年5月21日
文部科学省
初等中等教育局

1. 趣旨

「高校生のための学びの基礎診断」（以下「基礎診断」という。）の認定を受けるため民間事業者等から申請された測定ツール又は認定された測定ツールが、「『高校生のための学びの基礎診断』の認定基準・手続等に関する規程」（平成30年3月6日文部科学省初等中等教育局長決定）に規定する認定要件に適合しているかどうかについて審査するため、「高校生のための学びの基礎診断」の認定に関する審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置する。

2. 検討事項

- (1) 基礎診断としての認定及び指摘事項に関する事項
- (2) 基礎診断としての認定の取消しに関する事項
- (3) その他必要な事項

3. 審査委員会の構成等

- (1) 審査委員会の審査員は、公平・公正かつ客観的な審査を行う観点から、原則として専門的知見を有する外部有識者で構成するものとする。
- (2) 必要に応じて、審査員以外の者から意見を求めることができる。

4. 実施期間

審査委員会は、文部科学省が基礎診断としての認定を行う場合又は認定の取消しを行う際に必要のある場合、開催するものとする。

5. その他

- (1) 審査委員会の運営に関する事項その他必要な事項は別途定める。
- (2) 審査委員会に係る庶務は、初等中等教育局高校教育改革プロジェクトチームにおいて処理する。

「高校生のための学びの基礎診断」の認定に関する審査委員会の運営について

平成30年5月21日
文 部 科 学 省
初 等 中 等 教 育 局

1. 審査方法等

- (1) 「高校生のための学びの基礎診断」(以下「基礎診断」という。)の認定及び認定の取消しの審査は、『「高校生のための学びの基礎診断」の認定基準・手続等に関する規程」(平成30年3月6日文部科学省初等中等教育局長決定)(以下「規程」という。)に規定する認定要件に基づき行う。
- (2) 基礎診断としての認定の審査は、規程5.(2)に定める分担審査及び全体審査により行う。
- (3) 本審査委員会は、審査員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。
- (4) 審査委員会としての認定の可否案及び指摘事項の内容案を合議により決定する。また、本審査委員会の議事は、利害関係者を除く審査員の過半数で決し、可否同数のときは、座長の決するところによる。
- (5) 基礎診断としての認定の取消しの審査は、民間事業者等からの変更届等により、認定要件を欠くことや欠くおそれがあることが判明した場合に、必要に応じて行う。

2. 開示・公開等

- (1) 審査員の氏名は公正かつ中立な審査に著しい支障を及ぼすおそれなくなった後速やかに公開する。
- (2) 本審査委員会は非公開とする。
- (3) 本審査委員会において配布した資料については、原則、公開する。ただし、本審査委員会が公開することが適当でないと判断した資料については、非公開とする。
- (4) 議事要旨について、匿名とし、審査委員会終了後、審査結果が取りまとまった後に公開する。

3. 利害関係者の排除

審査員は、以下のいずれかに該当する場合は、速やかに申し出るとともに、当該測定ツールの審査に参画することが出来ないものとする。

- (1) 申請された測定ツールの実施事業者の役職員として在職(就任予定を含む。)し、又は3年以内に在職していた場合
- (2) 申請された測定ツールの開発に有識者として関与している場合
- (3) その他中立・公正に審査を行うことが困難と判断される場合

4. 守秘義務等

- (1) 審査の過程で知り得た個人情報及び審査内容に係る情報については外部に漏らしてはならない。
- (2) 審査員として取得した情報(申請書等各種資料を含む)は、他の情報と区別し、善良な管理者の注意義務をもって管理する。
- (3) 審査資料等は、審査を行うことを目的とするものであり、その目的の範囲内で使用する。

「高校生のための学びの基礎診断」の認定に関する審査委員会 名簿

- 荒瀬 克己 大谷大学文学部教授
- 臼田 三知永 東京都立小松川高等学校統括校長
- 内桶 二郎 茨城県立太田第一高等学校教頭（全日制）
- 大久保 智哉 独立行政法人大学入試センター准教授
- 岡本 和夫 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構顧問
- 佐藤 和彦 東京都立広尾高等学校長
- 柴山 直 東北大学大学院教育学研究科教授
- 清水 美憲 筑波大学大学院教育研究科長・教授
- 関根 郁夫 十文字学園女子大学特任教授
- 竹内 理 関西大学外国語学部・学部長・教授
- 長塚 篤夫 順天中学・高等学校長
- 仁田 善雄 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構研究部長
- 根岸 雅史 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
- 藤森 裕治 信州大学学術研究院教育学系教授
- 前川 眞一 独立行政法人大学入試センター調査室特任教授
- 松本 久永 兵庫県教育委員会事務局高校教育課教育指導班主任指導主事兼主幹
- 宮本 久也 東京都立八王子東高等学校長
- 山崎 裕子 静岡県立掛川西高等学校教頭
- 渡邊 剛 茨城県教育庁学校教育部高校教育課副参事

計19名

※敬称略・五十音順

○分担審査と全体審査の両方に参加する審査員

「高校生のための学びの基礎診断」の申請が見込まれる測定ツール一覧

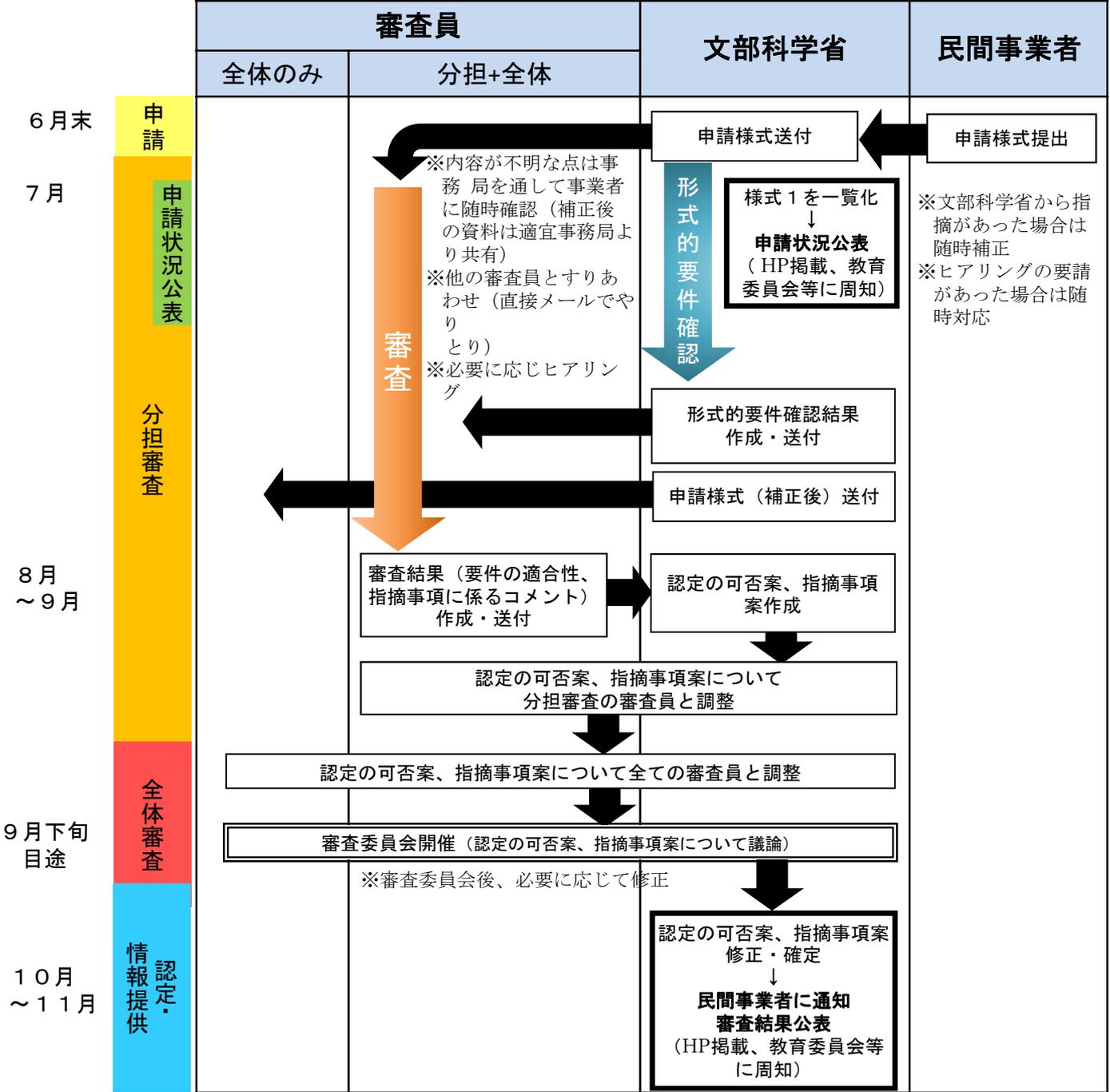
計 22 件

新規 : 6 件 (国数英 3 件、国 0 件、数 3 件、英 0 件)
 既存改良 : 10 件 (国数英 6 件、国 2 件、数 0 件、英 2 件)
 既存そのもの : 6 件 (国数英 0 件、国 0 件、数 2 件、英 4 件)

対象教科	団体名	測定ツールの名称	新規開発	既存改良	既存そのもの	基本タイプ	標準タイプ	受検料(税込)	備考
国数英(9)	(株)ベネッセコーポレーション	ベネッセ総合学力診断(仮称)		○			●	1年生:2,820円/回 2年生:7月2,930円/回、 11・1月3,080円/回	進研模試の1年生3回分、2年生3回分に該当。 現行の価格から変更なし。
		スタディーサポート 認定版(仮称) (αタイプ、βタイプ、θタイプ)		○			●	3,100円/回 2回セット動画付き7,440円	現行の商品も販売を継続する予定(2,630円)
		進路マップ・基礎力診断 認定版 (仮称)		○		●		英語スピーキングキット版 2,200円/回(進路適性検査付2,920円/回) 英語スピーキングテスト 版2,980円/回(進路適性検査付3,700円/回)	現行の商品も販売を継続する予定(1,860円)
		進路マップ・実力診断テスト/実力 判定テスト(仮称)		○		検討中	検討中	検討中	現行価格:実力診断テスト2,050円、実力判定テスト2,160円
		スタディープログラム		○			●	6,000円(年間利用料として「まとめ診断」3回までの受検を含む)	
	リクルートマーケティングパートナーズ (西北出版株式会社と協力)	スタディサプリ 活用力診断～ベーシック～		○		●		3,000円/回(予定)	
		スタディサプリ 活用力診断～スタンダード～		○		●		3,000円/回(予定) ※高2の11・1月は5教科で3,300円。	
	株式会社 学研アソシエ	基礎力測定診断		○		●		1,700円/回	「V-STEP」(1,700円/回)の後継にあたる新商品
		学習到達度診断(基礎力コース、実力コース)		○		●	●	1,800円/回(フォローノート付2,000円/回)	記述式を追加予定(現行の商品は選択式・短答式のみ) 現行の価格から変更なし。
国(2)	(株)ベネッセコーポレーション	Literas 論理言語力検定(3級)		○		●		2,700円/回	「語彙・読解力検定」のリニューアル版。 「語彙運用力」、「情報理解力(聴解・読解)」、「社会理解力」の3領域で構成されているが、「社会理解力」は教科外の領域であるため認定の対象外。 現行価格:4級1,950円、3級2,350円、準2級2,850円
		Literas 論理言語力検定(2級)		○		●		3,100円/回	
数(5)	(公財)日本数学検定協会	実用数学技能検定(3級)		○		●		3,000円/回	
		実用数学技能検定(準2級)		○		●		3,500円/回	
	(公財)日本数学検定協会 (一社)ICT能力開発協会と協力)	数検スコア総合診断		○			●	検討中	
		数検スコア I・A学期末診断		○			●	6,220円/回	4か月間学習項目分析を活用可能(教師が授業の進度に応じて学習項目を選択可能)。学期末診断の結果に4か月の小テスト結果を統合したものが結果として提供される予定。
(株)ベネッセコーポレーション	未定		○			●	検討中		
英(6)	(株)ベネッセコーポレーション	GTEC(Core, Basic, Advanced)		○		●	●	検討中	2019年からは基礎診断用のアセスメントツール、共通テスト用の検定試験の2つに分かれる予定。基礎診断用では統一実施日は設けず、一年を通して好きな時期に受検可能。ただしオフィシャルスコアはない。 現行価格:5,040円
	Z会ソリューションズ	基盤学力アセスメントシリーズ「英語CAN-DOテスト」(レベル2、レベル3)		○		●	●	3,900円/回(学校価格)	2018年4月に販売開始 レベル2(J-CEFR:A1.1~A2.2) レベル3(J-CEFR:A1.3~B1.2)
	British Council (ブリティッシュ・カウンシル)	Aptis for Teens (アプティスフォー ティーンズ)		○			●	8,000円/回	結果提供が英語のみのため、新たにCEFRの日本語訳をつける予定
	(公財)日本英語検定協会	英検IBA TEST C		○		●		検討中	現在はLとRの2技能であるが、SとWを追加した4技能版を2019年中に実施開始予定。現行の2技能版も販売を継続する予定(500円) 出題範囲は英検準2級~4級(実際は3・4級中心のため基本タイプで申請予定)
	ケンブリッジ大学英語検定機構	A2 Key			○		●		9,720円/回
Linguaskill				○		●		確認中	申請を検討中

※本資料は、事前相談において民間事業者から提供された検討段階の情報を基に事務局が作成したものであり、今後十分変更があり得るものである。
 また、上記以外の測定ツールも申請される可能性がある。

「高校生のための学びの基礎診断」の認定に係る審査プロセス(案)



専門分野毎に見るべき主な観点(案)

◎特に見るべき観点 ○見るべき観点

様式	記載項目	教科教育・高校教育	試験運営	テスト理論・教育測定			
様式 1	①事業者名						
	②測定ツール名						
	③主な対象者	○		○			
	④対象教科						
	⑤測定内容の区分	◎	出題範囲に照らしてタイプの設定は適切か				
	⑥申請する測定ツールの目的・概要	○		○			
	⑦申請する測定ツールの特長・活用例等	○		○			
	⑧実施期間、年間実施回数						
	⑨実施方式(CBT/PBT)						
	⑩試験時間						
	⑪受検料						
	⑫標準返却期間						
	⑬URL(事業者のHPIにおける測定ツール紹介)						
様式 2	I 出題	I.(1)出題の基本方針	◎		○		
		I.(2)構成等①出題形式	◎		○		
		I.(2)構成等②出題範囲	◎				
		I.(3)難易度設定の考え方・方法	◎	対象とする高校生の実状に照らして適切な難易度設定と言えるか	◎	テスト理論の観点から設定の考え方や方法は適切と言えるか	
		I.(4)基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫	◎		○		
		I.(5)その他特長	○		○		
	II 結果提供	II.(1)受検者個人への結果提供内容・方法	◎	生徒の学習改善に資する内容となっているか	◎	生徒の学習改善に資する内容となっているか	
		II.(2)学校への結果提供内容・方法	◎	教師の指導改善に資する内容となっているか	◎	教師の指導改善に資する内容となっているか	
		II.(3)試験等の結果(正答状況やスコア等)に対する評価の考え方と分析の手法	◎	試験等の結果に対する全体及び領域等毎の評価の考え方などを明らかにしているか		◎	
		III.(1)問題の質を確保するための方法			◎	一般的な試験運営方法に照らして作問体制・方法は適切か	◎
	III 運営	III.(2)学校における実施方法	◎	高校の実状に照らして実施可能か	◎	一般的な試験運営方法に照らして実施可能か	
		III.(3)採点の方法と体制			◎		
		III.(4)情報管理体制	○		◎		
		IV 情報開示	IV.(1)障害のある受検者等への配慮				
	IV.(2)事前/事後学習教材の有無、内容		◎				
	IV.(3)学習状況等のアンケートの有無、内容		◎				
	IV.(4)個人受検の可否						
	IV.(5)問題内容の情報提供						
	IV.(6)その他						
	様式 3	帳票	◎	学習改善・指導改善に資する内容となっているか		◎	学習改善・指導改善に資する内容となっているか
実施要項、学校用実施マニュアル		◎	高校の実状に照らして実施可能か	◎	一般的な試験運営方法に照らして実施可能か		
様式 4	測定しようとする資質・能力の具体的内容	◎	測定しようとする資質・能力と学習指導要領が対応しているか		○		
様式 5	サンプル問題	◎			○		

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項（イメージ素案）

※破線囲みは、全測定ツール共通の指摘事項。

I. 出題に関すること

《3教科セットの測定ツールで、英語の「話す」技能の測定がない場合》

- 2021年度までの間の国語、数学及び英語の3教科セットの測定ツールにおける英語の「話す」技能に関しては、測定することに代えて問題、解答例及び採点基準を提供することとしても差し支えないこととしているが、英語4技能のバランスのとれた育成・評価を促進する観点からは、将来的な4技能測定機能の具備に向けた「話す」技能測定に関する技術開発や環境整備の進展も期待される。
- 学校におけるスピーキング試験の実効性を高める観点からは、問題、解答例及び採点基準に留まらず、実施マニュアル（試験の運営例など）、得点ごとの応答例、採点研修用ツール等が提供されることが望ましい。

II. 結果提供に関すること

- 診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組み例も参考にしつつ、結果提供について、不断の改善に努められたい。

	結果提供の具体的な内容	結果提供の具体的な方法
受検者個人	全体及び領域等毎の評価（ルーブリックに基づく段階表示をはじめとした「～できる」の記述文による評価）、課題が多く見られた分野、当該分野や誤答類型に基づいた学習のアドバイスや復習問題・講義動画など	学校を通じた紙媒体による返却、受検者専用webサイトを通じた電子データによる返却
学校等	学級・学年別の概況・分析結果（平均点、得点分布、全体及び領域等毎の評価（ルーブリックに基づく段階表示をはじめとした「～できる」の記述文による評価など）の分布、課題が多く見られた分野、経年変化など）、課題が多く見られた分野や誤答類型に基づいた指導のアドバイスや復習問題・講義動画など	紙媒体による返却、学校専用webサイトを通じた電子データによる返却、加工可能な形での結果データの返却、結果に関する分析会の実施など

Ⅲ. 運営その他に関すること

《情報セキュリティ・ポリシーの策定や外部認証の取得を行っていない場合》

- 受検者個人の基礎学力の定着度合いという極めて重要な個人情報を取り扱うことから、高等学校が安心して選択できるよう、情報セキュリティ・ポリシーの策定や外部認証の取得など、情報管理体制の状況が外形的に確認できるような取組に努めることが望まれる。

《障害のある受験者等への配慮を何ら行っていない場合》※

- 障害者差別解消法により、民間事業者等であっても、過重な負担にならない範囲での「合理的な配慮」の提供が求められている（努力義務）ことを踏まえ、障害のある受験者等への配慮に努めることが望ましい。

※具体の対応が決まっておらず、「学校からの相談に応じ、必要に応じ対応を検討」等とされている場合を含む。

《試験内容の不断の検証》

- 難易度設定、出題内容の妥当性・信頼性の検証、採点結果の信頼性向上などについて、不断の検証・改善に努められたい。

《CBTでの実施、IRTの導入、適応型テスト導入に向けた検討》

- CBT（Computer-Based Testing の略称。コンピュータ上で実施する試験）及びIRT（Item Response Theory（項目反応理論）の略称）については、既に実用化されている例があり、また、同一試験時間内において、問題正答率に応じてそれ以降の問題の難易度を変えたりすることのできる適応型テストへの拡張ができ、受検者の学力の定着度合いをより正確に測定することが可能となるなど、多くの展開が想定される。こうしたことを踏まえ、これらの実施方式の将来的な導入に向けた検討を行うことが望ましい。

《低廉な受検料》

- できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定に加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮などが望まれる。

「高校生のための学びの基礎診断」の認定に係る審査結果 記入様式①

審査員氏名 _____

事業者名：
測定ツール名：
対象教科：
測定内容の区分：

認定基準等	認定基準への適合性			審査過程において確認が必要な事項・懸念される事項
	適合	不適合		
	評価	評価	不適合の理由	
Ⅰ．出題に関する事項	(1) 学習指導要領を踏まえた出題の基本方針を定め、当該方針に基づき問題が設計されていること。			
	(2) 対象教科は国語、数学又は英語とし、共通必修科目を中心に出题すること、義務教育段階の内容を含むことを明らかにしていること。ただし、義務教育段階の学習内容の定着度合いを測定することを重視することを明らかにしている測定ツールについて共通必修科目からの出題を少なく設定すること、あるいは、学習進度に配慮して出題範囲を設定する場合において、受検時期に応じて共通必修科目からの出題を少なく設定し、又は義務教育段階の内容を含まない設定とすることは、差し支えない。			
	(3) 主として知識・技能を問う問題に加え、主として思考力・判断力・表現力等を問う問題を出题することを明らかにしていること。			
	(4) 主として思考力・判断力・表現力等を問う問題として、一定数の文字や数式等を記述させる記述式問題(※)を出题することを明らかにしていること。 ※自ら解答を考え、文又は文章で解答するもの(1つに限定される正答を書くのではなく、複数の選択肢や考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確に書くものを含む。)			
	(5) 英語は「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能を測定することを明らかにしていること。ただし、国語、数学及び英語の3教科セットの測定ツールにおける英語の「話す」技能については、2021年度までの間に利活用されるものに限り、測定することに代えて問題、解答例及び採点基準を提供することとしても差し支えない。			
Ⅱ．結果提供に関する事項	(1) 学習指導要領に示す目標に照らした定着度合いの測定を通じて学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資する結果提供がなされることを明らかにしていること。			
	(2) 試験等の結果(正答状況やスコア等)に対する全体及び領域等毎の評価(ルーブリックに基づく段階表示をはじめとした「～できる」の記述文による評価など)の考え方と分析の手法を明らかにしていること。			
Ⅲ．運営その他に関する事項	(1) 学校において実施可能で、学校にとって過度な負担が掛からない方法で実施されるものであること。			
	(2) 学校等が測定ツールを選択するのに必要な情報や選択に資する情報(※)が開示されていること。 ※出題や結果提供、運営に関する情報のほか、障害のある受検者等への配慮、事前/事後学習教材や学習状況等のアンケートの有無・内容などの情報。			
	(3) その他実施内容に関し特に著しく不適切と認められる内容が存在しないこと。			

「高校生のための学びの基礎診断」の認定に係る審査結果 記入様式②

審査員氏名 _____

事業者名：

測定ツール名：

対象教科：

測定内容の区分：

様式	記載項目	コメント（懸念事項、更なる改善が望まれる事項）	審査過程において確認が必要な事項・懸念される事項

※「記入様式①」に記載した内容は「記載様式②」への記載は不要です。

「高校生のための学びの基礎診断」の認定に係る審査結果 記入様式①

審査員氏名 _____

事業者名： ■ ■ 株式会社
 測定ツール名： ◆ ◆ アセスメント（標準コース）
 対象教科： 英語
 測定内容の区分： 標準タイプ

認定基準等	認定基準への適合性			審査過程において確認が必要な事項・懸念される事項	
	適合	不適合			
	評価	評価	不適合の理由		
I・出題に関する項目	(1) 学習指導要領を踏まえた出題の基本方針を定め、当該方針に基づき問題が設計されていること。	○			<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 審査の途中段階で民間事業者の確認が必要な事項等がある場合は、「審査過程において確認が必要な事項・懸念される事項」欄に記入のうえ、事務局にメールでご送付ください。 </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 思考力・判断力・表現力等を問う問題として様式5で示されているサンプル問題が単なる知識・技能を問う問題となっているため、補正を求める必要がある。 (確認結果) 民間事業者よりサンプル問題の差替えあり。(差替え後の資料を送付しますので、ご確認ください)。 </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> 事務局より確認結果をお伝えします。 </div>
	(2) 対象教科は国語、数学又は英語とし、共通必修科目を中心に出题すること、義務教育段階の内容を含むことを明らかにしていること。ただし、義務教育段階の学習内容の定着度合いを測定することを重視することを明らかにしている測定ツールについて共通必修科目からの出題を少なく設定すること、あるいは、学習進度に配慮して出題範囲を設定する場合において、受験時期に応じて共通必修科目からの出題を少なく設定し、又は義務教育段階の内容を含まない設定とすることは、差し支えない。	○			
	(3) 主として知識・技能を問う問題に加え、主として思考力・判断力・表現力等を問う問題を出题することを明らかにしていること。	○		<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"> 確認結果を踏まえて審査結果をご記入ください。 </div>	
	(4) 主として思考力・判断力・表現力等を問う問題として、一定数の文字や数式等を記述させる記述式問題(※)を出题することを明らかにしていること。 <small>※自ら解答を考え、文又は文章で解答するもの(1つに限定される正答を書くのではなく、複数の選択肢や考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確に書くものを含む。)</small>	○		記述式問題の出題がないため(記述式とされている問題が、単に本文中から語句を抜き出す問題となり、基礎診断で定義する記述式問題には当たらない。)	
	(5) 英語は「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能を測定することを明らかにしていること。ただし、国語、数学及び英語の3教科セットの測定ツールにおける英語の「話す」技能については、2021年度までの間に利活用されるものに限り、測定することに代えて問題、解答例及び採点基準を提供することとしても差し支えない。	○		「話す」技能の測定がないため。	
II・結果提供に関する項目	(1) 学習指導要領に示す目標に照らした定着度合いの測定を通じて学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資する結果提供がなされることを明らかにしていること。	○			
	(2) 試験等の結果(正答状況やスコア等)に対する全体及び領域等毎の評価(ルーブリックに基づく段階表示をはじめとした「～できる」の記述文による評価など)の考え方と分析の手法を明らかにしていること。	○			
III・運営その他に関する項目	(1) 学校において実施可能で、学校にとって過度な負担が掛からない方法で実施されるものであること。	○		学校外の公開会場のみが会場として設定されているため。	
	(2) 学校等が測定ツールを選択するのに必要な情報や選択に資する情報(※)が開示されていること。 <small>※出題や結果提供、運営に関する情報のほか、障害のある受検者等への配慮、事前/事後学習教材や学習状況等のアンケートの有無・内容などの情報。</small>	○			
	(3) その他実施内容に関し特に著しく不適切と認められる内容が存在しないこと。	○			

「高校生のための学びの基礎診断」の認定に係る審査結果 記入様式②

審査員氏名 _____

事業者名：株式会社●●
 測定ツール名：★★診断（基本レベル）
 対象教科：英語
 測定内容の区分：基本タイプ

様式	記載項目	コメント（懸念事項、更なる改善が望まれる事項）	審査過程において確認が必要な事項・懸念される事項
様式 1	測定内容の区分	出題範囲が A1～B2 で A2 を中心としているので、標準タイプとするのが適切ではないか。	
様式 2 様式 4	I. (1) 出題の基本方針 (2) ②出題範囲 測定しようとする資質・能力の具体的内容	出題の基本方針では、アウトプットに関する力（「話すこと」・「書くこと」に関する資質・能力）の測定を重視することが示されているが、問題の出題比率が少なくなっており、基本方針との整合性がとれていないのではないか。	
様式 5	サンプル問題	サンプル問題の設問は、前提条件があいまいであり、解答例で示されているもの以外に複数の解答が存在する。前提条件の見直しなど問題を修正するか、問題の差替えを行うよう民間事業者に求める必要がある。	
・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・

※「記入様式①」に記載した内容は「記載様式②」への記載は不要です。